

御所市の公共交通の問題及び課題（案）

1.1.1. 公共交通に関する問題・課題の抽出

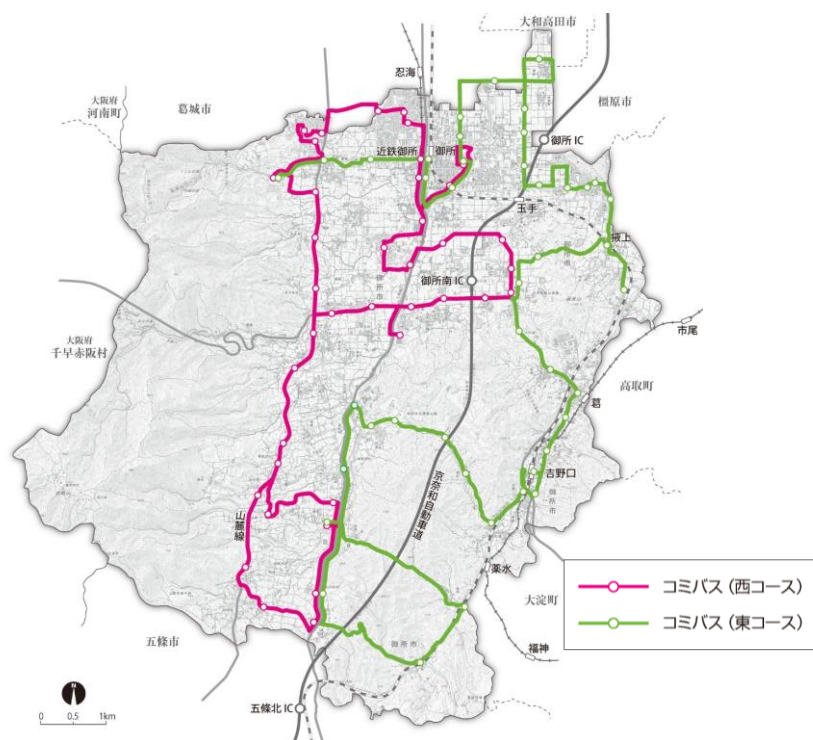
地域の現状、公共交通の現状アンケート調査の分析結果、御所市の財政状況等を踏まえて、市における公共交通に関わる問題・課題を以下に抽出した。

(1) 公共交通の問題点

ア 地域によって公共交通のニーズが異なっている

(現状のデータ)

- ・市内の公共交通は、鉄道（近鉄、JR）、路線バス、コミュニティバス、タクシーがあり、コミュニティバスについては、市内を2コースで巡回しており、1周約90分かかっている。

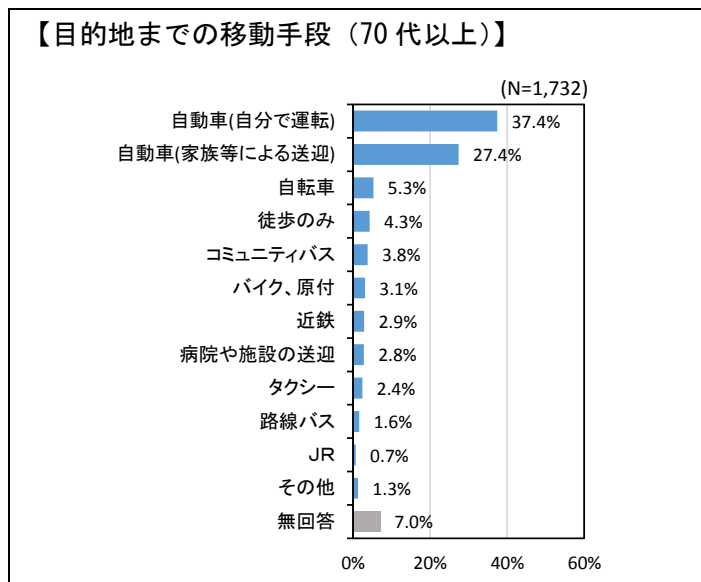


コミュニティバスのルート

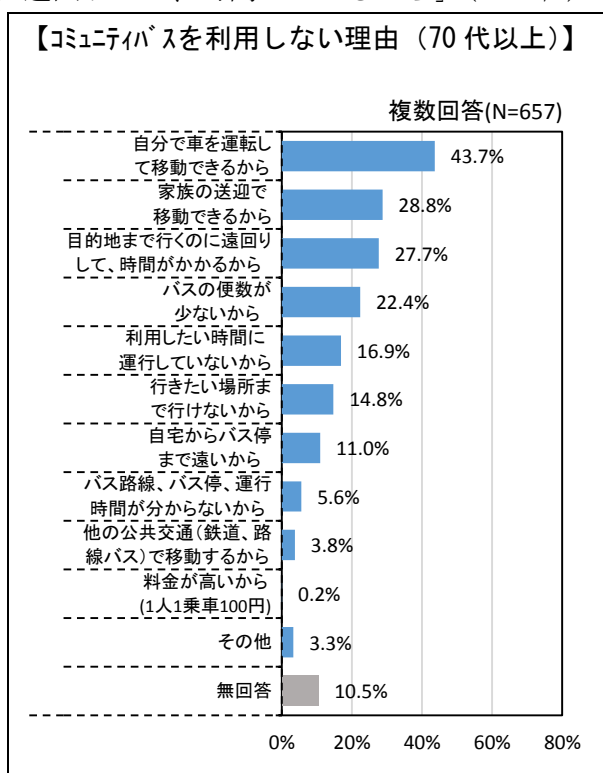
※出典： 御所市調べ

(アンケート結果)

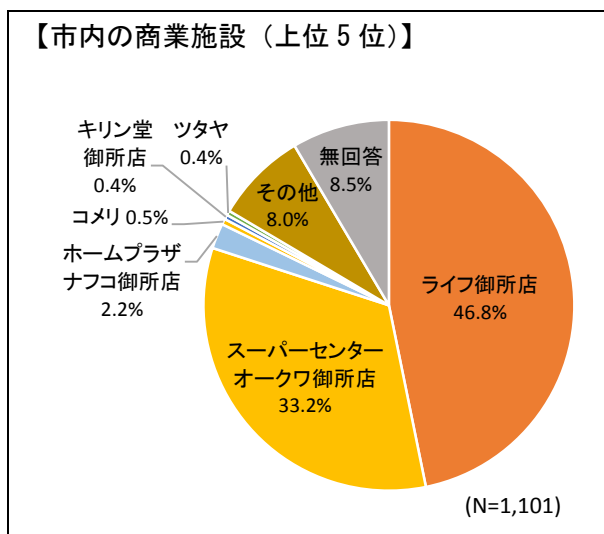
- ・70才以上の市民の移動手段としては、「自動車（自分で運転）」が37.4%、「自動車（家族による送迎）」が27.4%と車の依存度が高く、公共交通の利用率は高くはない。



- ・70才以上のコミュニティバスを利用しない理由について、「自分で車を運転して移動できるから」と「家族の送迎で移動できるから」を除いた場合、「目的地まで行くのに遠回りして、時間がかかるから」（27.7%）が最も高い。



- ・主な外出（買物、病院）は、市内の買物は、市北部の方は「ライフ御所店」で、市南部は「スーパーセンターオークワ御所店」と地区によって異なっている。



■市内の商業施設（上位5位）地区別

(単位：人)

店舗名	全体	御所地区	秋津地区	吐田郷地区	葛地区	被上地区	葛城地区	大正地区	忍海地区	無回答等
ライフ御所店	515	109	26	24	37	62	27	206	15	9
スーパーセンターオークワ御所店	366	19	46	61	78	25	78	46	8	5
ホームプラザナフコ御所店	24	1	4	5	5	5	3	1	0	0
コメリ	5	1	2	0	1	0	0	0	1	0
キリン堂御所店	4	3	0	0	0	0	0	1	0	0
ツタヤ	4	0	0	0	0	0	1	0	3	0
その他	88	4	5	8	10	11	11	34	5	0
無回答	95	12	10	8	11	8	14	24	2	6
計	1,101	149	93	106	142	111	134	312	34	20

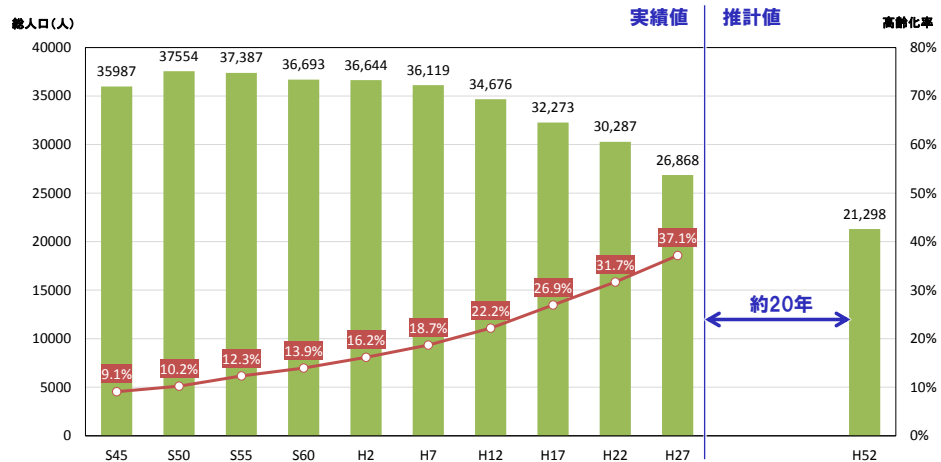
(問題点)

- ・これらのことから、各地区の方々が利用したいサービス（目的、手段）が異なっている。

イ 人口が急激に減少し、高齢者が増加している

(現状のデータ)

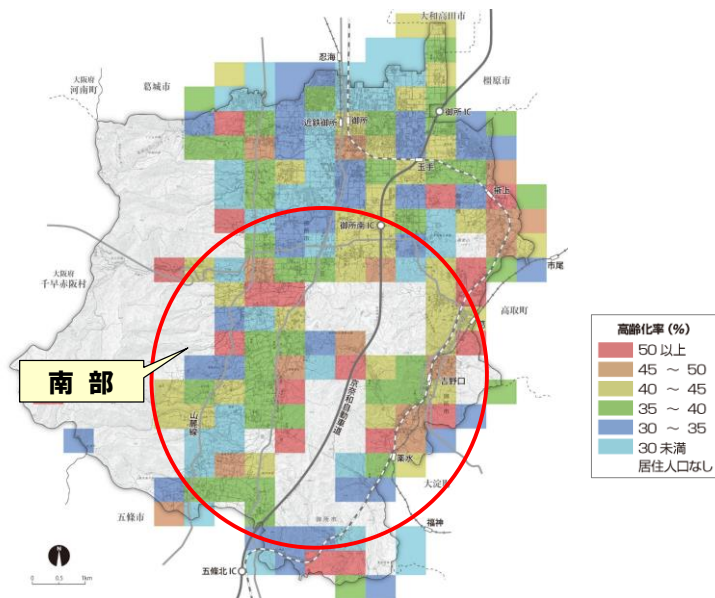
- 御所市の人口は、昭和50年（43年前）の約3万8千人をピークに減少し、平成27年には約2万7千人となっている。今後、出生率の向上策及び転出抑制策により、平成52年（2040年、22年後）に約2万1千人となる。



御所市の人口の推移

※出典：平成27年までは国勢調査、
平成32年以降は御所市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年12月）

- 人口減少と反比例して、高齢化率が高くなっており、特に、市北部に比べて市南部の高齢化率が高い地区が多い。



御所市の高齢化率の状況

※出典：平成27年国勢調査

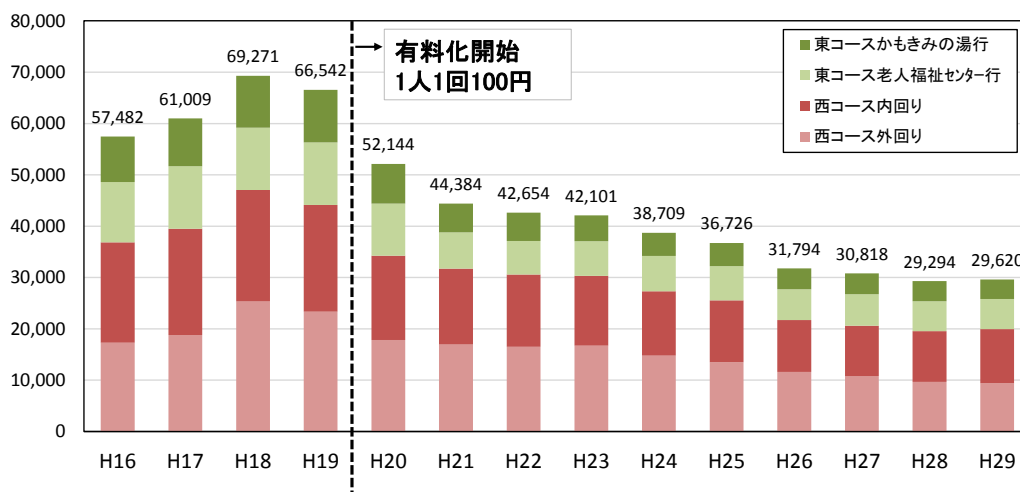
(問題点)

- 人口減少・高齢化により、特に、南部地域は、北部に比べて、高齢者も多い状況である。

ウ コミュニティバスの利用者は減少傾向であり、利用率も低い状況である

(現状のデータ)

- ・平成 29 年度のコミュニティバスの利用者は約 3 万人であった。利用者数は平成 18 年度の約 6 万 9000 人をピークに減少傾向である。

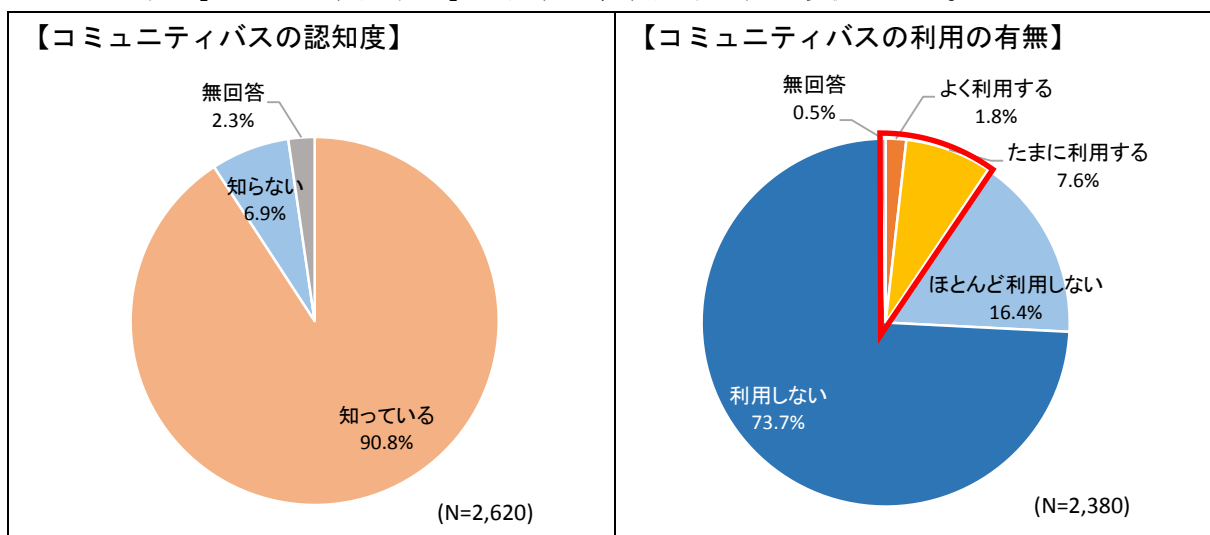


コミュニティバスの利用者数の推移

※出典： 御所市調べ

(アンケート結果)

- ・コミュニティバスの認知度は、90.8%が「知っている」と回答しているが、コミュニティバスを「知っている」と回答した人のうち、9.4%が「よく利用する」「たまに利用する」と回答し、利用率は低い状況である。



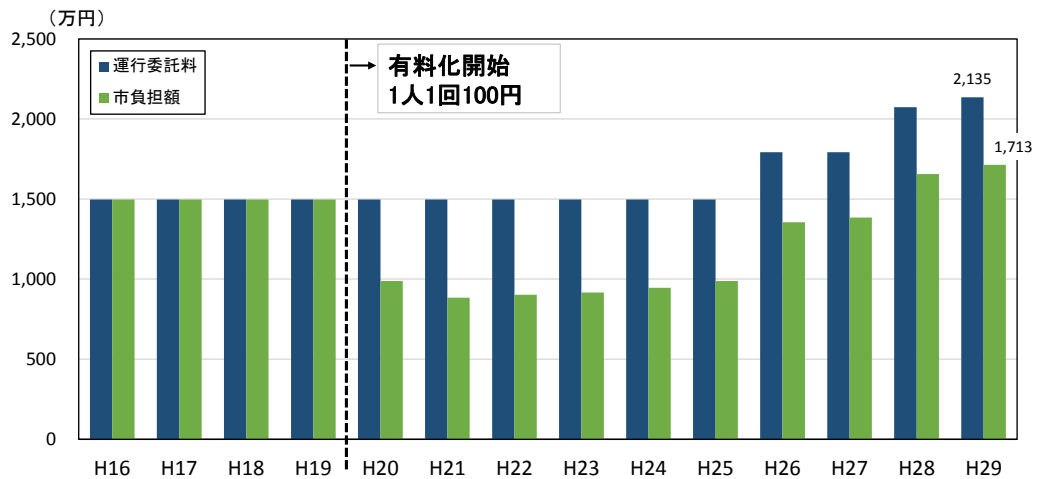
(問題点)

- ・このことから、コミュニティバスの利用者は減少傾向であり、また、市民の利用率も低い状況である。

エ コミュニティバスの運行経費が近年増加しており、今後、市の財政負担が増加し続けられる

(現状のデータ)

- ・コミュニティバスの運行委託料は約 2100 万円、市負担額（運行委託料から利用料金及び広告料を差し引いた額）は、約 1700 万であり、両費用ともに、近年増加傾向となっている。

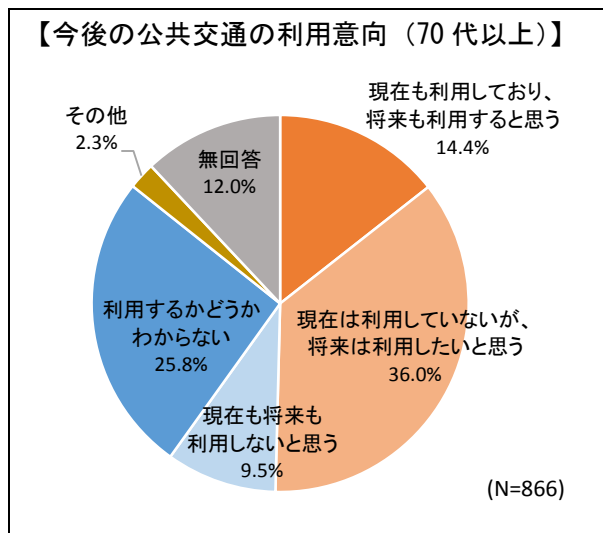


コミュニティバスの運行委託料及び市負担額の推移

※出典： 御所市調べ

(アンケート結果)

- ・今後の公共交通の利用意向については、「将来も利用すると思う」と「将来は利用したいと思う」と回答した 70 才以上の方は、約 50%であり、住民の半数は、今後とも、市の公共交通の利用を望んでいると思われる。



(問題点)

- ・このことから、コミュニティバスの運行経費が増加する中で、市民は今後とも公共交通の利用を望んでいる方が多く、公共交通を続ける限り、今後も市の財政負担が増加し続けられると思われる。

(2) 公共交通の課題

ア (市北部) 需要やニーズに応じた効率的なルートの検討が必要

- ・市北部は、市南部に比べ人口が多く、主要な公共施設、スーパー、病院が集積している。
- ・コミュニティバス利用者の不満は「目的地まで遠回りで時間がかかる」との意見が多く、公共交通を使いたい市民は「運行本数の増加」のニーズが高い。
- ・このことから、1周約90分の巡回時間を短縮するなどして、運行本数を増やすことで、需要やニーズに適した効率的なルートの検討を行う。

イ (市南部) 高齢者にとって利便性の高い公共交通の検討が必要

- ・市南部は、市北部に比べ人口が少なく、高齢化率も高い地区が多い。
- ・現在のコミュニティバスの運行時間が非常に長く、利便性の高い公共交通とはいい難い。
- ・このことから、高齢者が多い地区であり、また、集落が点在することから、少ない需要に応じた利便性の高い公共交通を検討する必要がある。

ウ 公共交通の利用促進が必要

- ・アンケートの結果、多くの市民が、自家用車で移動していることが分かったが、その一方で、交通手段がない高齢者や若者層等に対して、利便性を向上させるだけでなく、利用促進を行う必要もある。

エ 運行内容に応じたコスト検討が必要

- ・市の公共交通の運行経費は増加傾向であり、また、公共交通の利便性を向上させることで、さらに運行費用は増加すると思われる。
- ・今後は、人口減少等により、市の歳入も減少することから、持続可能な公共交通を目指すため、運行内容に応じたコストを抑制する取り組みが必要である。